

「始まる前に戦争とめよう」ニュース

発行：とめよう戦争への道! 百万人署名運動・事務局 <http://millions.blog.jp/>
連絡先：〒101-0061 千代田区三崎町 2-20-7-303 tel.fax.03-5211-5415

第4号 2017年2月23日

「一般の人は関係ない」はウソ!

警察による国民監視とセツト

ジャーナリスト
青木理さん



誰かと話し合う（共謀）だけで逮捕される共謀罪。これまで3度も廃案になったが、安倍政権は今国会で強行したい考えた。そのため安倍首相は、「一定の犯罪を犯すことを目的とする集団に限定するので、一般の方々が対象となることはありえない」と強調する。



現代の治安維持法 戦争のための弾圧体制 新「共謀罪」を阻止しよう

1925年制定の治安維持法も、当初政府は「一般人は無関係」と説明、「ロシア政府の息のかかった」資本主義に反対する運動を取り締ま

た。しかし改定や拡大解釈を繰り返して、反動的言動も標的になり、戦争反対の声を押しつぶしていった。作家の小林多喜二が拷問死するなど、多くの犠牲者を出した。

米・韓・日軍事同盟と共謀罪

共謀罪の新設は「戦争をすする日本」をつくるものだ。その戦争とは、戦争法が最も想定している朝鮮半島での戦争だ。トランプ政権のマティス国防長官が最初に訪問したのが韓国、その次が日本

ジャーナリストの青木理さんは「共謀罪新設の最も問題な点は、警察捜査を容認させること」と指摘する。「秘密だった盗聴や盗撮などの捜査手法が公然と行われ、それはやがて社会を確実に委縮させていく」という。「共謀罪は、

起きていない犯罪を取り締まるといふもの」といふことは、国民への監視と管理がセツトになる。だから対象犯罪を絞り込んで歯止めにはならない。怪しい、危険だと警察が判断した組織・団体・個人を



新「共謀罪」阻止集会
3月22日（水）午後6時30分
日比谷図書文化館（東京・日比谷公園内）
講演 内田博文さん（神戸学院大学教授）
主催 現代の治安維持法と闘う会



2月6日の辺野古沖とキャンプ・ジュワブゲート前



辺野古の海上工事を許すな!

沖縄圧殺を宣言した安倍・トランプ



辺野古が「輝く国づくり」?

「米トランプ大統領との絆をさらに強化する」「辺野古沖への新基地建設を進める」。これは、安倍首相の施政方針演説（1月20日）だ。安倍は演説の最初の章に「世界の真ん中で輝く国づくり」というタイトルをつけ、なんとその章の中で辺野古基地建設を強調した。

沖縄県民の声を圧殺して辺野古の海を埋め立て、米海兵隊の新たな基地を造ることが

「世界の真ん中で輝く国づくり」だと言っつのか。

マティス国防長官の暴言

2月3日、初来日したマティス国防長官は、「普天間基地移設に関して」2つの案がある。1つが辺野古で、2つが辺野古だ」と言った。なんといい方か。彼は元軍人で、アフガニスタン戦争やイラク戦争の司令官だった。沖縄の抵抗を国家暴力で踏みつぶせと言わんばかりだ。

12トンブロックを228個

2月6日、辺野古沖での海上工事が始まった。1個12トンものコンクリートブロック



サンゴを押しつぶすコンクリートブロック

228個をサンゴ礁に投下するといふものだ。

海上やキャンプ・ジュワブゲートの前などで連日の抗議行動が闘われている。

「核を使う」と日米共同宣言

2月10日に行われた日米首脳会談、そこで発表された日米共同声明で再び「辺野古が唯一」と打ち出した。また、声明の冒頭で、「核



ソウル80万人、パクネ打倒のキャンドル

2月17日、サムスン電子の副社長が贈賄容疑などで逮捕された。韓国の労働者民衆はパクネ打倒・財閥解体を掲げ、サードミサイル配備反対を訴えて闘い続けている。2月25日は大闘争だ。（写真は2/18のソウル80万人集会）

および通常戦力…あらゆる米国の軍事力を使った日本の防衛に対する米国のコミットメントは揺るぎない」と表現した。共同声明で「ハッキリと核および通常戦力…を使った」と言っつのは初めてで、核による先制攻撃も辞さないことを表している。

沖縄の闘いを国家暴力で圧殺して戦争に突き進もうとする安倍とトランプ。しかしそんなことで沖縄の闘い、労働者民衆の闘いは絶対につぶせない。ともにたたかおう。